

第7回〈令和6年11月27日開催〉

第16回議会活性化事業

コミュニティスクール議会広報

■発行：占冠村議会

■責任者・編集：議会広報特別委員会

〒079-2201 北海道勇払郡占冠村字中央 TEL 0167-56-2191 FAX 56-2184



参加状況

- 占冠中学校(生徒 8人) ●トナム学校(生徒 5人) ●占冠村議会議員 8人
- 傍聴者 14人

CS議会の動き

- | | |
|--|--|
| 8月 1日 占冠中学校・トナム学校と村議会との意見交換(学校・担当議員) | 11月18日 トナム学校一般質問まとめ、通告書作成(学校・担当議員) |
| 11月8日～ 以降、両校・議員・事務局間での協議調整
担当議員・事務局での内容協議(担当議員) | 20日 占冠中学校一般質問まとめ、通告書作成(学校・担当議員)、一般質問通告期限 |
| 8日 占冠中学校事前打合せ(学校・担当議員) | 21日 一般質問通告書調整、議員配布 |
| | 22日 一般質問内容確認、答弁調整等(全議員) |

校長あいさつ (トナム学校 長岡勇樹校長)

この事業は平成30年から始まり、今年で7回目です。

CS議会は、議会の仕組みを理解することによって、責任ある大人として社会へ参加するための基礎を育むなどの狙いがあります。今日の議会のために皆さんが考えた質問を発表する場です。それに対して議員の皆様から回答を得られますが、ぜひその後に再質問をしてほしいと思います。聞くことや、再質問は恥ずかしいと思う生徒もいるかもしれませんが、勇気を出して分からないことなど、どんなことでも聞き直す、再質問をすることも今日頑張してほしい狙いの一つです。

このCS議会の開催に当たり、議員の皆様、関係機関の皆様にご感謝申し上げます。

生徒あいさつ (鈴木楊生君)

今日は実際の議場で議員の話を聞くことができる貴重な機会をいただきありがとうございます。

私はこれまで占冠村の一村民として生きてきた経験とともに、村での日常会話から出てきた疑問、個人的に気になっていることを抽出して、質問にまとめてきました。

また、今年度は昨年のCS議会での経験を生かし、議論がより深まるように学習を進めてきました。

今日のCS議会を通して、議員の方々から、占冠の課題について学び、これからの時代を生きる世代としてひとごとと考えず、今後に向けての解決策を模索し、自ら行動するきっかけになるようにしたいです。本日はよろしくお願い致します。

人間として、社会へ参加するための基礎を育むことを目的に開催されました。
ため、生徒一人一人が議員に質問し、意見を述べていただきました。

井川CS議員

問 生徒用端末など学校のICTの予算はありますか。

小林議員 今年度は生徒用の端末の予算措置はされてお
りません。教師用、校務用パソコン、セキュリティサービ
スが予算に組まれております。生徒用タブレットは令和8
年に更新予定となっております。

再問 今後、学校生活や職場などでICTが必要になると
思いますが、生徒用のChromebook^{クロームブック}だけで本当にICT
について学べるのですか。

小林議員 Chromebook だけでICT活動ができるかにつ
いては、今、この場で即答できません。

再問 個人的な考えとしては、ICTを学べる機材を増やし
たり、検索の範囲を広げることでICTが発展していても、
僕たちはついていけると思うのですが、どう思いますか。

小林議員 便利なものなので、使用方法を十分に把握す
れば学校においても学習効果が上がる機器だと思ってお
ります。

問 学校のトイレの改修工事の予定はありますか。

小林議員 実施設計は終わっていますが工事費が予想より
高くなるということで、財源確保が必要なことから、具
体的にいつということは未定になっているということです。

再問 個人的な考えとしては、全体を直すのではなく、古
くて壊れている部分だけを直すことで、時間やお金が掛か
らず、生徒にとっても、不満がなくなると思うのですがど
う思いますか。

小林議員 小破修理は村の財源でできるので修繕をして
います。

中本CS議員

問 2022年10月号の広報しむかつぶにゼロカーボンシ
ティー占冠宣言に関わり村のごみ事情の記事が載っていま
した。ごみの減量化に重点を置いています、徳島県上
勝町で発表され、リサイクル率が80パーセント以上にな
ったゼロウェイスト宣言を村がするとしたら、ごみ出しをし
っかり分別した人に、ごみの量に応じたポイント制にして村
の特産品をプレゼントするなどが考えられました。このよ
うなごみを生かしたリサイクルなどの取組みは考えていま
すか。

大谷議員 村では何種類かに分けて収集しておりますが、
個別に分別された方を見極めることは難しいです。ポイン

ト制は良いアイデアですが、分別した方を特定することは
できない状況のため難しいと考えます。ただ、各家庭に
もう少し細かい指導をしていけたらと考えます。最終処分
場で埋めている紙ごみをもっと分別すると、一般ごみの量
が減る考えますので、皆さんと考えたいと思います。

問 占冠の現状は分かりました。ありがとうございます。
徳島県上勝町のような取組みを世界や周りに広げていくた
めにはどうしたらいいと思いますか。

大谷議員 参考にしたいと思っています。予算、地域の広
さの関係など、考えることがあると思いますので皆さんと
考え学んでいきたいと思っています。

杉岡CS議員

問 占冠村木質バイオマス生産組合で排出される小枝など
の廃材はどのように利用されていますか。また、廃棄され
ている場合、木質バイオマスボイラーの燃料としての利用
は可能ですか。また、木質バイオマスボイラーの使用によ
って排出される灰を肥料に活用することは可能ですか。

小尾議員 排出される廃材は、作業現場から丸太で木質
バイオマスに運搬されます。作業上、小枝等の廃材は排
出されません。決められたサイズに薪加工されて、村内
の各家庭に出荷されます。また、伐採木の枝や抜根等は、
チップ等細かく砕いて破断処理して有効利用をしていま

す。廃棄された廃材の木質バイオマスボイラーの燃料に
は廃材は利用は適しませんので、利用していないという
ことになります。木質バイオマスボイラーから排出される灰
を肥料に利用することは十分可能で肥料、融雪剤や土壌
の改良材に利用可能と思われます。

問 木を切った際の枝などをチップに加工して利用してい
るとのことですが、具体的にどのような場所でどのように
利用しているのかお聞きします。

小尾議員 作業場所で移動可能なチップの加工機械を用
いて、廃材や枝等を整理する作業になるかと思っています。

占冠村の中学生が、議会の仕組みを理解することによって成人後に責任ある。今回は模擬議会として学校や地域の事柄等を議会の流れに沿って議事を進

藤岡CS議員

問 アスペン交流の今後についてですが、中学生が主体となっているアスペン交流活動だと思いますが、アスペン生を受入れていない中学生がいる家庭での交流の時間や回数の少なさについてはどうお考えでしょうか。

大谷議員 各学校で交流時間と回数があると思います。訪問期間中に1か所の学校に集まり1週間なら3、4回ぐらい合同で行うような方法があると思います。ただ、各学校の事情もありますのですぐにはいきませんが、そういう方法があるということをご今後当事者になると思いますので意見を言っていただけたらと思います。

問 アスペン生が占冠村にいつ来て、いつ帰ったかなどの情報が回りきっていないという事実についてはどうお考えでしょうか。

大谷議員 今回は、皆さんと一緒に歩いているところを見ることがもなく、終了したと思います。今後、村側にも情報公開していただけるよう進言したいと思います。

問 実際に情報共有をするとしたらどのような方法が考えられるのでしょうか。

大谷議員 ホームページだけですと、それを見ない高齢者の方もいますので、一般に広報しむくがで周知するのが1番と考えます。

問 いろんなパーティーが行われていますが、迎え入れた家庭の人たち以外に村全体の人が交流する場として、全体の人が来られるようなパーティーの計画はあるのでしょうか。

大谷議員 交流の機会を増やすことは大事だと思います。短期間で村民全体が交流することは難しいと思いますが参考にしたいと思います。

問 写真撮影や親との連絡手段としていろいろな条件をつけてたりしてスマートフォンを持ち込んでもいいと思いますが、持込みは許可されないでしょうか。

大谷議員 アスペン交流の担当者に確認いたしました。持込みはアスペン側から禁止したいという要請があつて禁止しているという話でした。条件を付けることはやぶさかではないとのことですが、どんなルールを付けたら持ち込んでもいいと考えますか。

藤岡CS議員 家庭内で使用はしないこと、観光地などアスペンならではの場所での写真撮影や動画撮影などは、ルールを設けることが考えられます。

大谷議員 迎える側の意向もありますが、引率者に預けるなどの条件が必要かと思います。アスペン側の承認も必要なため、これから行く方のために考慮してもらうよう話を進めていけたらと思います。

伊達CS議員

問 占冠村のユニバーサルデザインや、バリアフリーの施設の現状を伺います。そして、道の駅に、聴覚障害者や視覚障害者のためのバリアフリーはないのですか。もしないのであれば新たな設置予定はありますか。

藤岡議員 結論から言いますと設備は現状無いです。今そういった方の対応については個別対応でやっているというのが現状です。今後について、十分検討していかなければならない問題であると考えますし、行政に確認したところ、検討を進めたいということでした。

問 個人的な提案ですが、視覚障害者のためにトイレに誘導する誘導音や点字ブロック等を導入する、聴覚障害者のためにトイレの誘導看板の設置や筆談対応、手話通訳員の雇用などが考えられますが、いかがでしょうか。

藤岡議員 取り組まなければならない課題はまさにそこであり、行政サイドに我々から提言し、伊達議員の考えを含めて取り組んでいきたいと思っています。

問 占冠村の老人ホームに高齢者のためのユニバーサルデザインの器具は設置されていないのですか。

藤岡議員 小規模多機能型居宅介護施設「とま〜る」が完全バリアフリー等の建物になっており、他の自治体にも劣らないようなものであると思います。もう一つ、一番重要な懸案として、人員が足りておらず、福祉介護に関わる人材確保が重要な問題になっています。伊達議員も将来、村のために一助になっていただければ非常にありがたいと思います。



鈴木CS議員

問 公園の遊具が少なく、子供が外で遊ぶ機会が少なくなっていますが、公園を増やさないのには何か理由があるのでしょうか。また、遊具が無いことで村民から不満の声が上がっていないのか伺います。

小林議員 村内に児童公園はトナム地区に2か所、中央に1か所あり、その他に保育所に2か所、各小学校に遊具が設置されております。遊具が少ないとの不満の声は、出ていないということでした。

問 意外と多くてびっくりしました。小学校の遊具は中学生が使うと後ろめたい目で見られたり、川添公園は中学3年生で遊んでも害虫がいたり、遊具が小さく思い切り遊べないのが現実で、遊具を大きくするとか害虫対策はしていないのか伺います。

小林議員 中学生を対象にした造りになっていないので、中学生も屋外で遊具を利用したいのであれば、今後検討していかなければならないと感じました。

問 雇用創出のため地方から企業を誘致していると思いますが、どのような方法で誘致をしているのか伺います。

小林議員 企業誘致につきましては、村のホームページで見ることができます。その中身については、用地取得に対する費用助成、工場の新設や医療福祉施設の新設事業に対する固定資産税の免除などがあります。条例関係では、占冠村活力ある村づくり対策条例も検索できるようになっております。ちなみにトナムリゾートは、村が企業誘致をして現在に至っております。

渡辺CS議員

問 ふるさと納税の寄附状況について、どこの人がどれぐらい占冠にふるさと納税を寄附していますか。

藤岡議員 全国の方々から651件、9,032万5,000円という大きな寄附をいただいております。

問 新しい返礼品としてアクティビティなどの体験や各お店の商品などがいいと思いますが、返礼品を増やすことは考えていますか。

藤岡議員 現在42品目あります。品目増について企画商工課が窓口になり返礼品を検討しています。各企業からの申し出もあり、行政からも常に求めています必ず成立するとは限りません。そのような声があれば受けてお話をするのが現在の状況です。

問 去年のCS議会でSNSなどを利用して発信していることを知りました。そこでより多くの人にSNSを知ってもらうために、村のイベントなどで宣伝して占冠のSNSを知るきっかけをつくったりしたらいいと思いますが、占冠のSNSを知ってもらうために考えていることはありますか。

藤岡議員 ホームページが基本にあると思います。議員も含め、みんなの力で広めていくことが大事だと思います。そういう意味では、今の渡辺議員の声も我々から行政に届ける取組みをやっていきたいと思います。

問 中学校に設置するエアコンはどのような種類ですか。

小林議員 冷暖房兼壁掛け型ルームエアコンでインバータータイプです。

問 冷暖房ということは、冬でも温かい空気が出るエアコンということでしょうか。

小林議員 一応冷暖房ということで、細かいことは聞いていませんが、夏場の冷房用に使われ、冬場の暖房は従来どおりです。

問 中学校でエアコンを使っていくうえで、電気代が掛かってしまうのですが、村からのルールや制限などはありますか。

小林議員 使用については特にありません。ただ節電できる時は、協力をお願いしますということでした。

八木CS議員

問 占冠村で確認されている絶滅の危機に置かれている動物は主にどのようなものが何種類ほど生息しているか、その動物たちをどのように保護しているかを質問します。

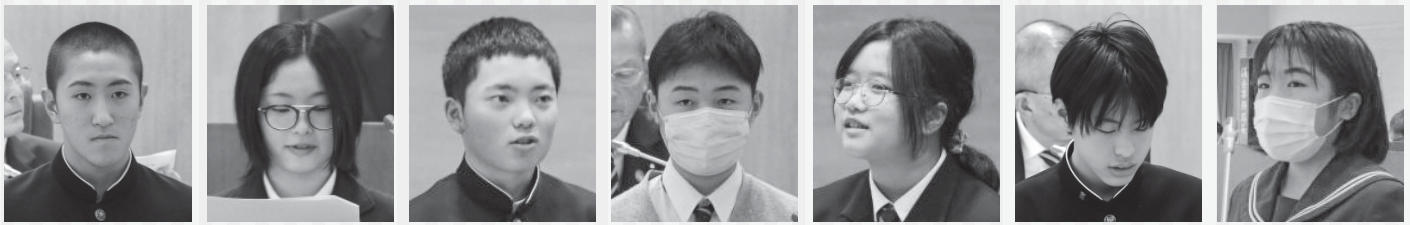
小尾議員 道内の絶滅危惧リストに掲載されている動物は1,330種あり、そのうち哺乳類が66種存在しています。占冠村の種類数は把握できませんでしたが個体の繁殖の促進、生息地の整備等が取り組まれています。今後の保護政策は、土地開発の汚染、乱獲や気候変動への影響を避けながら自然に優しい行動が守る一途になると思われます。

問 絶滅危惧種の動物たちの減少理由として、調べたところ、森林の伐採や密漁者が銃で撃ったまま森の中に動物を放置して、鳥等が食べて鉛中毒で死んでしまうということがわかりました。占冠でそのような事例が原因で減っていることを把握しているのか質問します。

小尾議員 減少理由は、もともと数が少ないので人間の手が加わる前に自然淘汰されているのではないかと思います。一方増えているヒグマとエゾシカが村では課題で、駆除していますが減っていないのが現状です。保護活動は、続けていかななくてはならないと思っております。

問 保護活動を続けていく点で、このCS議会がなかったら野生動物の保護活動について調べようと思わなかった中で、野生動物の現状や今どうなっているか村の広報で知れば興味を持ってもらえると思います。対策も大事ですが、知らせることも大切だと思いますが、その点どうお考えでしょうか。

小尾議員 村広報にも野生鳥獣の管理についての記事もあります。村では職員を配置し保護活動を行なっていますが、関心を持たれるのはよいかと思います。



ラナCS議員

問 占冠村にはたくさんの外国の方々が住んでいますが、村から来るお金に関わる文書やイベントのお知らせなどの文書は全て日本語なので、内容が理解できず困ることがあります。英語にしたり、内容や手順、提出先などの詳細を分かりやすくしたりする必要があると思いますが、どうお考えでしょうか。

下川議員 今後、分かりやすくしていく必要があるとは思いますが、見やすくなるために私たちが考えなくてはならないと思っています。英語にするだけではなく手順が図面化されるなどアイデアがあれば伺います。

ラナCS議員 学校で出た一つのアイデアですが、日本語で書かれた文書にQRコードを載せて、そのQRコードを読み取ると英語など他の外国語の言葉になって、読み取れるみたいな感じはどうなのかなと思っています。

下川議員 QRコードを使うことで多言語化できることが想像でき良いアイデアだと思います。今後そのようなものは必要だと思いますので、QRコードを付けられないのか提案をしていきたいと考えます。

関谷CS議員

問 トナムスキー場への無料交通手段についての質問です。村内の児童生徒はシーズンパスを持ちスキー場を無料で利用できる環境にいますが、トナム駅へのバスが朝と夕方の2本しか運行されておらず、利用時間が制限されています。そのため、保護者の送迎が必要となり、利用が難しい児童生徒もいる状況です。中長期休暇や土日祝日のみに専用バスや臨時便を導入することが可能か検討をお願いしたいとの提案です。これにより、より多くの児童生徒が安全にスキー場を利用でき、地域の魅力を発信できると考えています。村の対応についての意見を伺います。

木村議員 トナム駅への臨時バスを運賃無料で運行する事業について、まず村の議会の運営に関連する基本的な

枠組みを説明すると、地方自治法に基づき占冠村は住民の福祉向上を目的に事業を展開し、その為に税金を使用しています。同時に多くの事業の中で住民からの要求に応える優先度が求められます。関谷議員の意見を反映するための無料の交通手段を確保する具体的な方法としては、まず廃止されたJR根室線の代替えとして運行されている南富良野町営バスを活用し、60円の運賃を一時立て替え払いする償還方式が検討されます。次に、トナムには循環バスが無いので、診療所や温泉へのアクセス向上のためにも交通体系の整備を図ったり、最後に、自家用車を用いた有償旅客運送や登録ボランティアによる無料送迎の導入が挙げられます。これにより利用者の負担を軽減し、地域の交通問題を解決する方法ともなります。

樫本CS議員

問 学校のカメムシ発生量について伺います。昨年、占冠中学校からもお話がありましたが、トナム学校内でもカメムシの量が増え、困っています。今年10月のトナム学校の様子で困っていることはカメムシの臭いが苦手だったり、虫が苦手だと授業に集中できなくて勉強する教室を変えることがあるなどです。カメムシの量が年々増えているので、対策が必要だと思いますが、どうお考えでしょうか。

細谷議員 カメムシは、秋から冬にかけ越冬目的で室内に入り込んできます。その年によって発生に差があるようですが、今年は特に多くて大変だったと聞きました。

カメムシ侵入防止対策をしたがあまり効果が無く、発生がひどい教室は別の教室に移動していたとも聞きました。今後も大量発生の可能性もあると考えますが、発生や進入を完全に防ぐことは難しいです。生態や習性を理解し、一般的な侵入防止対策を行うとともに、街灯や校舎内室内灯のLED化、学校周辺の生息、繁殖場所の雑草刈り、凍結殺虫剤で駆除するなど、学校内だけではなく、PTAや地域の住民などを巻き込んだ捕獲作戦が必要です。また、学校運営管理については、予防対策の計画準備を提言することも必要と考えます。

問 児童生徒は Chromebook^{クロームブック} を使っていますがいろいろな不便を感じています。そこで、児童生徒にとっては iPad のほうがより適しているのではないかと考えます。iPad なら Chromebook の問題が改善されます。例えば、エアドロップを使えば簡単にデータを共有でき、アップルペンシルを使えば、まるでノートに書いているようにスムーズに文字を書くことができます。さらに、紙のような保護フィルムを付ければ、より書きやすくなります。また、既に多くの学校では iPad が導入されており、高校で学習や生活をスムーズに進めるためには、iPad に慣れておくことが大切です。これにより、将来、高校の学習にもすぐに対応できるようになると思います。これらの理由から、iPad は児童生徒にとって非常に使いやすい端末と言えます。iPad の導入を検討いただきたいと思います。お考えを伺います。

細谷議員 Chromebook の導入に際しては動作の快適さなどを考慮し選択されたとのこと。それぞれに特徴があり、優位性が異なっています。神部議員ご指摘の写真画質の粗さ、本体の重さ、アプリの制限の問題もある一方で、タイピングスキルの習得、メンテナンスのしやすさ、コスト面でのメリットがあります。iPad は、写真画質、本体の軽さ、アプリの豊富さなど独特のデザイン、クリエイティブな作業に優れていると言われています。ICT技術は日々進化しています。次の更新導入に向け、両校先生と教育委員会で構成されるICT推進委員会において、これまでの使用意見なども考慮し、iPad も選択肢として導入を検討していくことになると思います。

問 占冠村には多くの外国籍住民が居住しており大きな長所と考えられます。在留外国人が占める割合が増加しており言語教室の需要が高まっています。このため外国語教室を開設し外国語を話す住民から様々な言語を学ぶ機会を提供し、住民が日本語を教える場を設けることで地域の活性化や異文化理解の促進が期待されます。教室の開設実現の可能性はあるのか考えを伺います。

下川議員 外国語教室の開設に共感します。外国人との交流スペースも無く、日本人に対する英会話教室以外の言語スクールが存在していません。開設することで地域は盛り上がりますが、一方で自治体が開設するにはお金も掛かります。私たち自身の協力も必要であり、まずは小さなコミュニティスペースから外国人交流の場を作るべきだと思います。開設は必要だと思いますので、今後そのようなことも踏まえながら考えていきたいと思っています。

問 占冠村をよりよい村にするために意見を提案させていただいています。このような提案をする機会というのは、村民全員にいつでも開かれているべきだと考えました。例えば、村のホームページに住民の意見を投稿できる掲示板のようなページ、言うならばデジタル目安箱を設置することで村民が村づくりに参加しやすくなると思いますが、実行可能性について考えを伺います。

下川議員 掲示板の設置には調整や運用方法の検討が必要で、現時点では難しいと感じていますが、掲示板があれば意見をいつでも言えるため良いと思っています。意見箱の設置はしやすいかもしれませんが、行政と相談して進めていきたいと思っています。

議長の講評（抜粋）

今年で第7回目を迎えたコミュニティスクール議会「CS議会」では、中学生が1日議員として議会の運営を体験し、村づくりに参加する権利が占冠村むらびと条例に明記されています。

この議会では、中学生が一般質問を行い、議員がその質問に答える形で進行了。議事運営には様々なルールがあり、全員が平等に守ることが求められます。一般質問の持ち時間は通常60分ですが、今回は制約があるため、各議員6分に制限されました。この短い時間内での質問と回答は難しかったと思いますが、簡潔に意見を伝えることは今後も勉強していただきたいと思っています。

本日の質問テーマは学校や地域、村全体に関するものであり、中学生自身が考えた問題点を短期間で出されたことは合格点だったと思います。

また、一般質問には3つの注意事項があり、質問をする、質問内容は通告したことに限り、要望を述べないことが求められます。発言態度については、皆さん緊張しながらも堂々と発言していたことが良かったです。再質問を考慮することは難易度が高いですが、積極的に取り組んだ姿勢は評価に値します。一般質問では、自分の意見を持って質問することが重要であり、これにより異なる意見が出て再質問が可能になります。この考え方は学校生活にも役立つものです。

最後に、発言時間を延ばしたにも関わらず、議会の本義を尽くせたかどうかが課題として残ります。質問を途中で打ち切らなければならない事態もあり、次回への改善点として考えます。

以上で私の講評を終わります。

（占冠村議会 議長 児玉 眞澄）